

# Global Energy Policy Research

GEPR (グローバル・エネルギー・ポリシー・リサーチ) は、日本と世界のエネルギー政策を深く公平に研究し、社会に提言するウェブ上の「仮想シンクタンク」です。この機関は、アゴラ研究所 (<http://agorajp.com/>、東京) が運営し、エネルギー問題についての研究と調査、インターネットでの情報提供、シンポジウムの開催、提言の作成、書籍の出版を行います。

## IPCC報告の論点 : 書きぶりは怖ろしげだが実態は違う

杉山 大志 · Monday, October 4th, 2021

IPCCの報告がこの8月に出た

。これは第1部会報告と呼ばれるもので、地球温暖化の科学的知見についてまとめたものだ。何度かに分けて、気になった論点をまとめてゆこう。



### 前回の論点

に続いて「政策決定者向け要約」の続き。前回と同様、針小棒大な書きぶりが続く：

- A.3** 人為起源の気候変動は、世界中の全ての地域で、多くの気象及び気候の極端現象に既に影響を及ぼしている。熱波、大雨、干ばつ、熱帯低気圧のような極端現象について観測された変化に関する証拠、及び、特にそれらの変化を人間の影響によるとする原因特定に関する証拠は、AR5以降、強化されている。

**A.3.1** 極端な高温（熱波を含む）が、1950年代以降、ほとんどの陸域で頻度及び強度が増大してきた一方、極端な低温（寒波を含む）の頻度と厳しさが低下してきたことはほぼ確実であり、人為起源の気候変動がこれらの変化の主要な駆動要因<sup>註14</sup>であることの確信度は高い。過去10年に観測された最近の極端な高温の一部は、気候システムに対する人間の影響なしには発生した可能性が極めて低いだろう。海洋熱波の頻度は、1980年代以降ほぼ倍増しており（確信度が高い）、人間の影響は、少なくとも2006年以降の多くの海洋熱波に寄与していた可能性が非常に高い。

**A.3.2** 大雨の頻度と強度は、変化傾向の解析に十分な観測データのある陸域のほとんどで、1950年代以降増加しており（確信度が高い）、人為起源の気候変動が主要な駆動要因である可能性が高い。人為起源の気候変動は、陸域の蒸発散量<sup>註15</sup>の増加により、一部の地域で農業干ばつ及び生態学的干ばつ<sup>註16</sup>の増加に寄与している（確信度が中程度）。

{8.2, 8.3, 11.4, 11.6, 11.9, TS.2.6, Box TS.10} (図 SPM.3)

普通の人にはとにかく判り難い言葉だが、とにかくおどろおどろしい。「極端現象に既に影響を及ぼしている」「熱波、大雨、旱魃、熱帯低気圧．．」「大雨の頻度と強度は．．増加、人為起源の気候変動が主要な駆動要因」..

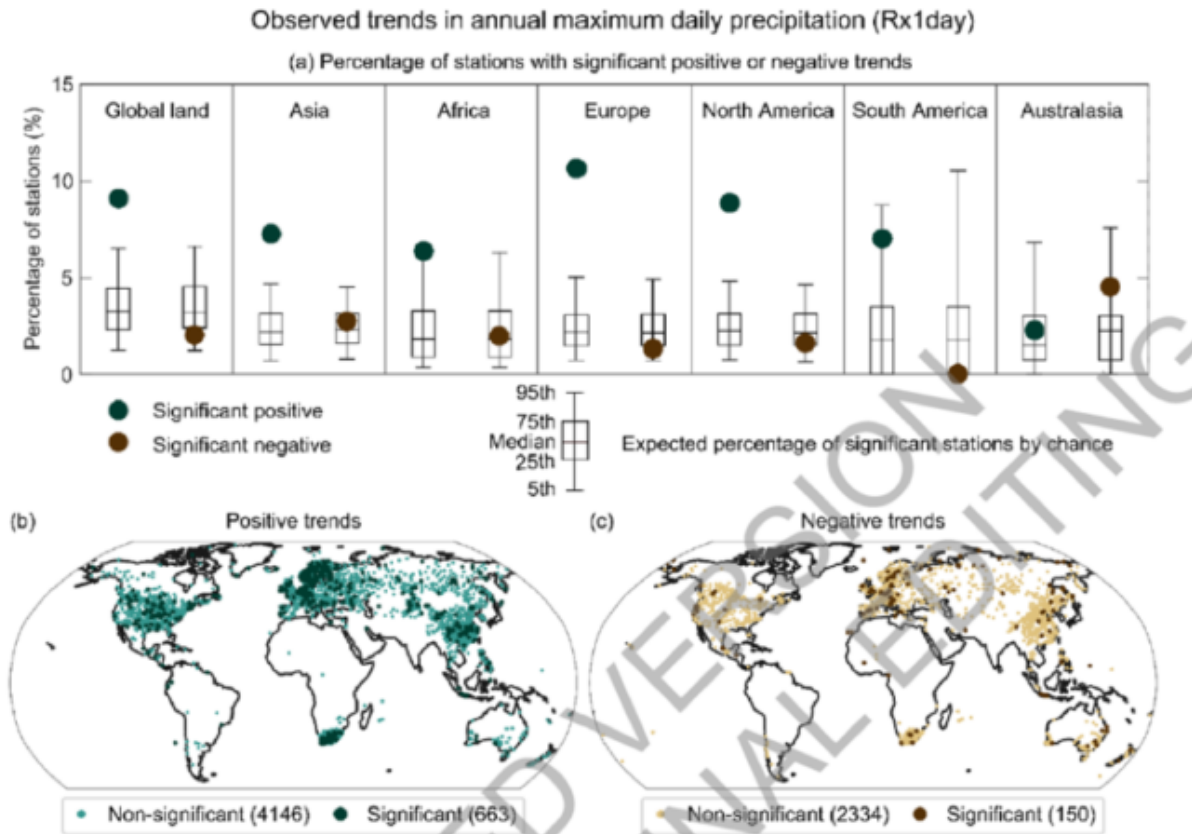
でもねえ。

「熱波に影響を及ぼしている」といっても、地球温暖化は江戸時代と比べて僅か1 だ。40 の熱波が41 になるぐらいの話。自然変動や都市熱の方がずっと影響が大きい。

大雨については既に論点

に書いたように、大雨の雨量が増えた観測所は全体の1割以下しかない(図1)。また論点

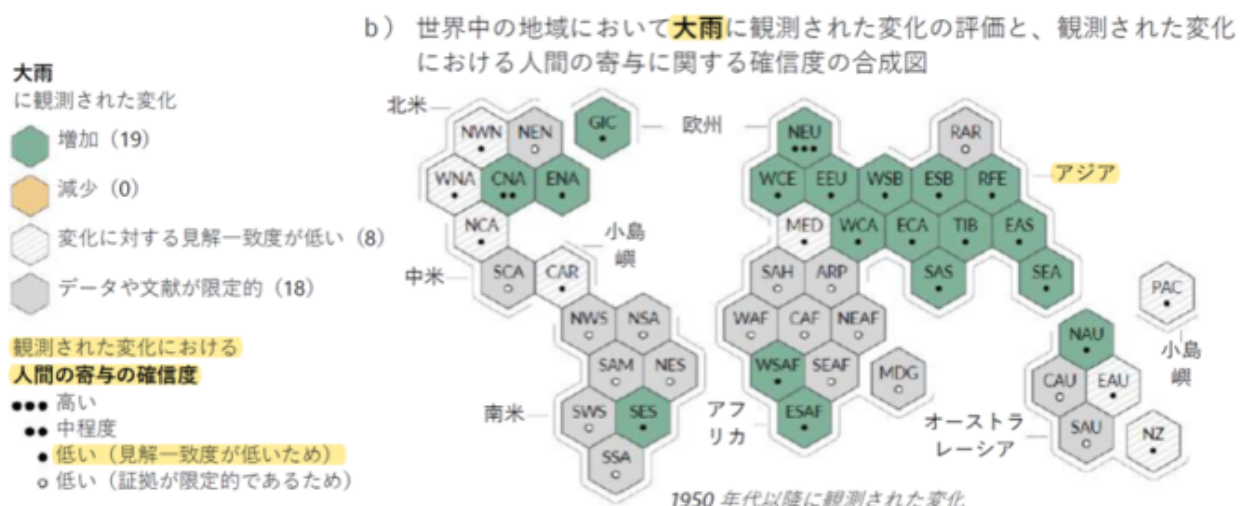
で書いたように、地域ごとに調べたら、日本を含めて殆どの場所で、それは地球温暖化のせいとは言えない、というのが現状(図2)。



**Figure 11.13:** Signs and significance of the observed trends in annual maximum daily precipitation (Rx1day) during 1950–2018 at 8345 stations with sufficient data. (a) Percentage of stations with statistically significant trends in Rx1day; green dots show positive trends and brown dots negative trends. Box-and-whisker plots indicate the expected percentage of stations with significant trends due to chance estimated from 1000 bootstrap realizations under a no-trend null hypothesis. The boxes mark the median, 25<sup>th</sup> percentile, and 75<sup>th</sup> percentile. The upper and lower whiskers show the 97.5<sup>th</sup> and the 2.5<sup>th</sup> percentiles, respectively. Maps of stations with positive (b) and negative (c) trends. The light color indicates stations with non-significant trends and the dark color stations with significant trends. Significance is determined by a two-tailed test conducted at the 5% level. Adapted from Sun et al. (2020). © American Meteorological Society. Used with permission. Further details on data sources and processing are available in the chapter data table

図1

図1 緑が有意に大雨の雨量が増加した観測所の割合で、地球全体では9%ぐらい。詳しくは論点を参照。



## 図2

図2 大雨の増加が観測された地域はいくらかあるものの、自然の変動などもあり、人為的な温暖化によるものとは言えない地域が殆どである。詳しくは論点 を参照。

つまり大雨が増えたり強くなったりする傾向は何となく見られるけれども、ようやく観測できるといったぐらいで、かろうじて誤差から見分けられる、という程度だ。

それに仮に雨が強くなっているとしても、理論的には1 の気温上昇で6%から7%程度。100ミリの雨が106ミリか107ミリになったということで、これが江戸時代から今までの長い時間に起きた、ということだ。

おどろおどろしく「気候危機」というなら、自然災害のデータはさぞや急激な右肩上がりで、誰の目にも明らかで文句無しなのかと思えば、そうではない。実態はこの程度のことだ、たいていは誤差の内か、せいぜい、かろうじて判別できるぐらいだ。

冷静になって数字を見ると、「人類の危機が迫っている！」という様な話からは程遠いことが分かる。

1つの報告書が出たということは、議論の終わりではなく、始まりに過ぎない。次回以降も、あれこれ論点を取り上げてゆこう。

次回：「IPCC報告の論点 」に続く

## 【関連記事】

- ・ IPCC報告の論点 : 不吉な被害予測はゴミ箱行きに
- ・ IPCC報告の論点 : 太陽活動の変化は無視できない
- ・ IPCC報告の論点 : 熱すぎるモデル予測はゴミ箱行きに
- ・ IPCC報告の論点 : 海はモデル計算以上にCO2を吸収する
- ・ IPCC報告の論点 : 山火事で昔は寒かったのではないか
- ・ IPCC報告の論点 : 温暖化で大雨は激甚化していない
- ・ IPCC報告の論点 : 大雨は過去の再現も出来ていない
- ・ IPCC報告の論点 : 大雨の増減は場所によりけり
- ・ IPCC報告の論点 : 公害対策で日射が増えて雨も増えた
- ・ IPCC報告の論点 : 猛暑増大以上に酷寒減少という朗報
- ・ IPCC報告の論点 : モデルは北極も南極も熱すぎる
- ・ IPCC報告の論点 : モデルは大気気温が熱すぎる
- ・ IPCC報告の論点 : モデルはアフリカの旱魃を再現できない
- ・ IPCC報告の論点 : モデルはエルニーニョが長すぎる
- ・ IPCC報告の論点 : 100年規模の気候変動を再現できない
- ・ IPCC報告の論点 : 京都の桜が早く咲く理由は何か
- ・ IPCC報告の論点 : 脱炭素で海面上昇はあまり減らない
- ・ IPCC報告の論点 : 気温は本当に上がるのだろうか
- ・ IPCC報告の論点 : 僅かに気温が上がって問題があるか？
- ・ IPCC報告の論点 : 人類は滅びず温暖化で寿命が伸びた
- ・ IPCC報告の論点 : 書きぶりは怖ろしげだが実態は違う
- ・ IPCC報告の論点 : ハリケーンが温暖化で激甚化はウソ

- ・ IPCC報告の論点 : ホッケースティックはやはり嘘だ
- ・ IPCC報告の論点 : 地域の気候は大きく変化してきた
- ・ IPCC報告の論点 : 日本の気候は大きく変化してきた



クリックするとリンクに  
飛びます。

「脱炭素」は嘘だらけ

This entry was posted on Monday, October 4th, 2021 at 7:00 am and is filed under [コラム](#), [地球温暖化](#)

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both comments and pings are currently closed.